

行財政改革の取組状況について

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況下において、感染防止と地域活性化の両立を図りながらまちづくりを推進していますが、市内経済環境の悪化のほか、人口減少・少子高齢化に伴う市税の減少など、今後も本市の財政状況は厳しさを増していくことが予想されます。

このため、市では、収支の均衡が図られるような財政構造の確立に向けて、平成30年度から令和4年度までの間、歳入確保や歳出削減をあわせて7億円の効果を生む行財政改革の取組を推進していますが、今月は、令和元年度の行財政改革の取組実績とあわせて、市が行政改革を進めるために設置している行政改革推進委員会の活動状況について、お知らせいたします。

■令和元年度の行財政改革の取組実績

市では、行財政改革の取組を進めていくにあたって、「財政基盤強化集中改革プラン」(<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/5441.html>)を策定し、施設の維持管理費の見直しや遊休施設等の売却のほか、施策を推進するための補助金の見直しなどを進めています。令和元年度の主な行財政改革の取組実績は次のとおりです。

○公共施設等の統廃合や複合化の推進 【効果額4,221千円】

- ・健民センターオートキャンプ場の廃止……行政運営の効率化を図るため2つのオートキャンプ場を1つ（滝里湖）に集約
- ・保健センターの廃止……令和元年度から検診等を別の公共施設で実施していたが、令和2年度から林業関係団体に無償貸付とするため、施設の用途を廃止

○総人件費の抑制 【効果額66,282千円】

- ・労務職（学校事務補助等）や一般職の退職者不補充（外部委託化や市役所組織のスリム化など）
- ・特別職の給料独自削減（削減率：市長30%、副市長15%、教育長10%）
- ・管理職の給料独自削減（削減率：医師を除き5%）
- ・非管理職の給料独自削減（削減率：主任以上の職員3%）
- ・時間外勤務の削減（毎週水曜日をノー残業デーとして設定）

○遊休施設の売却等 【効果額4,210千円】

- ・市有地や不用品の売払（マイクロバス、消防車など）

○公共施設の維持管理費の見直し 【効果額3,004千円】

- ・11公共施設（市役所、小学校、中学校、図書館など）の電気料金特約割引契約等の実施

○情報共有の推進 【効果額はなし】

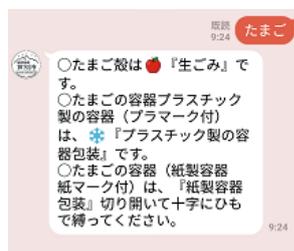
- ・SNSを活用した情報発信

○市議会の取組 【効果額11,463千円】

- ・議員報酬の独自削減（10%）及び政務活動費の廃止



▲「芦別で食べよう!!」（令和2年9月～）



◀LINEごみ分別にかかる自動回答（令和元年10月～）

■行政改革推進委員会の活動状況

学識経験者（北海学園大学：西村教授）のほか、公共的団体の代表者等及び公募に応じた市民等を委嘱（定数20人以内）し、平成29年10月24日から令和2年10月23日までを任期として、毎年テーマを設定しながら、3グループでワークショップ（グループ討議）を行い、これまで3回にわたって市長に提言書を提出してきました。

各グループにおいては、市が取り組む行政改革を推進するために、何が必要で、何を節約できるのか、何か工夫できるものはないのかなど、市民目線で市の事務事業の検証を進めてきました。

令和元年度は、20年後、30年後の将来の芦別を見据え、グループごとに設定した3つの目指すべき姿をテーマとして、行政改革推進委員会を6回開催し、令和2年2月26日に市長に提言書を提出しました。

(<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/5443.html>)

3つの目指すべき姿とその提言内容の一例

I. 住み続けたいと思えるまち

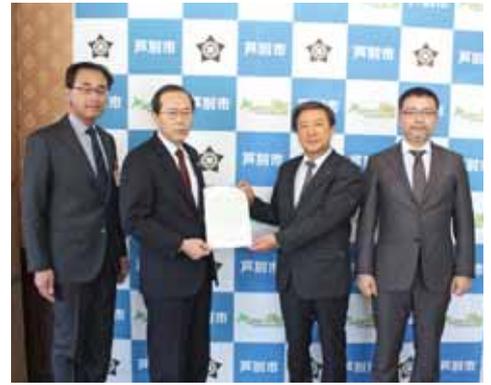
生徒数の減少に直面している芦別高校を今後も存続させるために、より魅力や特色のある学校とし、進学者を確保すべきである。

II. 雇用の創出等による安心して暮らせるまち

地元企業の求人状況が市民に分かりやすく伝わる仕組みづくりや地元企業への就職奨励制度の充実ほか、雇用のマッチングが図られるような取組みを推進するべきである。

III. 高齢者がいきいきと暮らせるまち

買い物や通院など、国の制度を活用しながらまちのコンパクト化を進めるべきである。



令和2年2月26日、市長へ提言書を提出しました。

★市長だより★

42



11月2日、例年、市が芦別道路維持管理協同組合に委託している市道等の「除排雪業務」に係る同組合主催による「出勤式」が、市車両センター内で実施され、業務の遂行にあたっては、交通法規の順守と安全運転、新型コロナウイルス感染症の徹底防止を徹底し、無事故、無災害で市民皆様の安全安心な暮らしの確保と冬の経済活動をしつかり支えることを誓い合われました。

冬場の天候は変化しやすく、厳しい寒さと自然が相手だけに、業務に従事される皆様には体調管理には十分留意いただき、安全第一で作業にあたっていただくよう切に念じますとともに、除排雪作業は、市民皆様はもとより関係機関、団体の皆様のご理解とご協力が不可欠でありますので、今季も、昨季同様に、ご協力のほどお願い申し上げます。

文化の日の同3日、「令和2年度芦別市功労者・善行者表彰式」が、総合福祉センターで、来賓各位のご臨席を得て、厳粛な中で執り行われました。

この度、表彰の栄に輝かれた方々は、多年にわたって農業委員会委員、民生委員児童委員、消防団員、町内会長、青少年センター補導員として、市勢の振興に寄与された方8人と、本市名譽

市民・伊達忠一様並びに小林英一様をはじめ、地域や産業振興、新型コロナウイルス感染症対策、総合福祉センターや市庁舎整備に係る事業に対し、多額の金員や不織布マスクを寄付された方3人と2団体のあわせて個人11人、2団体の皆様であり、それぞれご功績は異なりますが、等しく本市の振興発展に寄与いただいたことに、市民皆様を代表し、衷心より敬意と感謝の意を表させていただきます。

現下のコロナ禍に加え、人口減少や少子高齢化、地域経済の活性化等さまざまな課題が顕在化する中、郷土を愛する思いと、いかなる事態に直面しよう



11月3日に行われた芦別市功労者・善行者表彰式で、功労者8人、善行者3人と2団体の方々を表彰しました。

うとも、本市のDNAを守り、持続発展させることが今日の芦別を築かれた先人の方々、そして、この度受賞の栄に浴された方々にお応えすることであることを肝に銘じ、全力で取り組んでまいります。

道内及び空知管内においては、第3波ともいわれる11月中の新型コロナウイルス感染症拡大とともに、専門家からは、12月から来年1月にかけて全国で流行がピークを迎えるとの所見もあり、市民の皆様には、「手洗いやうがい、マスクの着用、3密の回避の徹底」など基本に立ち返り、また、「こまめな換気や室内で大声の出やすい環境を避ける」など、より一層感染予防に意を用いていただくとともに、誰もが感染リスクの可能性があることから、人権に配慮し、差別や偏見を持つことなく、1人ひとりが冷静に思いやりをもった行動により、市民一丸、団結して、コロナ禍を賢明に乗り越えてまいります。

師走に入り、本格的な冬を迎え、一段と寒さも増してまいりますので、市民皆様にはインフルエンザや風邪の予防にも十分留意いただき、ご健勝で新年をお迎えください。

芦別市長 荻原 貢